

平成 26 年 12 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 26 年度第 10 回

来年の展望

本年最後のフォーラムですので、一年の締めくくりの話と来年の展望をお話したいと思っています。猪瀬理事長から、締めくくりに出来るだけ明るい話をして欲しいとの要望がありました。

ではアベノミクスがらみで選挙の話と参りましょう。皆さんは選挙に行かれましたか？白票を投じた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回の選挙でいくつか注目点がありました。新聞やネット等で有識者は「投票に行きなさい。投票に行って自分の意志を標榜しなさい。その行動こそ民主主義が日本に根付いた証拠であり、日本の国を動かすことが出来るのです」と一所懸命推奨しています。しかし、是非この人にやって貰いたいという候補者がいない場合はどうすればよいのでしょうか。私は白票を投じてくれれば良いと思っています。出したい人が出るのではなくて、出たい人が出るのですから。団扇の大臣や、父親の代からの支援者に全部乗っかっているだけのお姫様ばかり、二世・三世がそのまま地場を引き継ぐというやり方もおかしいと思っています。白票が 3 割を超して無視できない数字になれば、選挙の仕組みが変わるだろうと思っています。

「身を切る」改革というのであれば、本当に身を切れば良いのです。議員数を半減する、報酬を半減する、これが身を切ることでないと私は考えます。それから投票には是非行くべきだと考えます。選挙に行って、書きたい人がいなければ白票を投じること。これが選挙制度を変えるものであると思います。小選挙区制については見直さなければいけないと思っていますし、今の選挙の仕組みを変えなければならぬと感じます。

今回の選挙は、有権者数の 17% しか自民党を応援していないという記事がありました。ほんの少しの人数で国政の権利を握る。これはドイツでヒットラーが国政に出て来た時と同じようなパターンです。ちょっとした選挙のからくりで、そう大勢でもない人達が応援する事によって、あれだけ大勝する。おかしい仕組みです。また、新聞には「大勝」という見出しが躍っていますが、自民党の議員数自体は減ったのですよね。これもおかしい話だと感じます。ですから物事を自分の眼でしっかり見る、ものの見方をしっかり持ってい

る人は、今回の選挙でおかしいと感じる部分が幾つもあったはずですが、根本的におかしいと思う部分が幾つもありますので、それを自分の眼で見て、発見して、判断して戴きたいと思えます。

安倍さんは全ての政策において信任を受けたわけではないのに、信任されたと演説をしています。全ての政策に信任を受けたというスタンスでこれから仕事をするでしょうから、恐いですね。そうすると先々に見えるのは、第三次世界大戦です。安倍さんは第三次世界大戦が起きるということを前提にして、もしくは日本が戦争に突入することを前提にして、一所懸命憲法改正に向けて進んでいる。戦争が起きた場合に日本の国は自衛力を持たねばならぬ、という方向に進んでいます。

戦争が起きてもそれなりの対応が出来る国にしたいということですから、一見良さそうです。世界の潮流から見ても、今は西洋文明が終わって東洋文明に移る大転換期にあり、そういう時は戦争も起きるし、国が亡んだり新しい国が出来たりする大激動期です。ですから安倍さんが目指すものとしては、基本的な考え方は悪くはないと思えます。

また歴史的に見ても、戦争が続いた後は平和、平和が続いた後は戦争になる。年月はそれぞれ変わるけれども、戦争の次には平和が来るし、平和の後には戦争が来るという流れです。そうすると日本は、次は戦争になっていくという流れですから、準備をしなければいけないと思っています。

来年のキーワードは「領土奪還」です。今までは穏やかに「領土回復」或いは「領土紛争」という言い方をしていましたが、まさに奪還です。イスラム国という過激派組織は現実に女性と子供を人身売買している。奴隷制の復活です。日本の国だけを見ていると、そんな馬鹿な！と思う事があるけれども、現実に首を斬られ、それが公開されています。勿論イスラム教自体が問題なのではなく、イスラム国と云われる過激派組織の動きが問題なのです。80 か国の若者がイスラム国に引き寄せられているのですから考える必要がありますね。日本でも神田で募集広告を見てイスラム国に参加しようとした若者が逮捕されました。日本の国の中で過激派が行動を起こすような所はないだろうと普通は思いますが、数年前には筑波大学でイスラムの経典を訳した先生が暗殺されました。日本の中でも過激派の襲撃があるということは現実の問題として起きています。

日本はロシアから狙われています。北海道は全部取られるということはありませんが、更に厳しくなるでしょう。中国が日本を植民地化しようとしていることは公然たる事実です。以前、ペマ・ギャルポさんの書かれた本をご紹介します。チベットがどのようにして中国に呑み込まれたか、直接お会いしてお話を聞いたことがあります。特に印象的だったのは、チベットの女性はチベットの男性と結婚する事が出来ません。そうすると 50 年 100

年の単位で考えれば、チベットの血筋は絶えてしまいます。完全に同化政策が進んでいきます。新聞や雑誌をよく見ていると、「中国がチベットを呑み込んだように…」とか「チベットが中国に呑み込まれたように・・・」という枕詞がちらほらと出てきています。ですからチベットが今どういう状況なのか見えてきます。

先々月、モンゴルへ講話に行きました。モンゴルはチベット仏教ですから、そこら辺はかなり神経をとがらせていました。論語の話をしに行ったのですが、新モンゴル高等学校からは、中国の話、特に孔子学院の話はなるべくしないでくださいと言われました。孔子学院はあちこちにお金をばら撒いています。中国が日本を植民地化しようとする場合、段階があって、最初は沢山お金をばら撒いて親善を図ろうとします。中国に親近感を覚えるような政策をとろうとする。そして最終目標として、日本については、天皇陛下を戦犯として処刑することだと中国の軍人たちは明確な意図を持っていますが、それは言いませんね。親しく、親しくというところだけです。そこら辺がモンゴルの方は見えていて、孔子学院については言わないで欲しいということなのでしょう。

翻って日本で考えると、琉球王国の復活に対して中国や韓国は火を点けつつある。特に中国がせっせと扇いで、ボヤから火事にしようという動きをしていると感じています。ということで、戦争の火種ばかりが見えてきますから、来年は一触即発で戦争に巻き込まれる可能性がかなり高くなると思っています。

お金に関して申し上げます。アベノミクスで国債をどんどん買い込んでいます。その先に何があるかというところ、デフレ脱却とインフレーターゲットを出しました。来年は一言で申し上げますとスタグフレーションです。不況下における物価高、これが来年一年は続きます。スタグフレーションが変わる時は、ハイパーインフレが起きる時だと思っています。ハイパーインフレが起きる幾つかの要因は、国債を買う人が誰もいなくなった時、その国債を絡めて、外国勢が株をおもちゃにしてべらぼうに儲ける。先日の日銀の追加緩和で、ハゲタカはかなり儲かったようです。ですから来年はスタグフレーション、下手をするとハイパーインフレです。

食べ物に関して申し上げます。先日、私の家庭菜園の師匠である神藤さんにさつま芋に関する資料を戴きました。さつま芋の研究会があるということが分かり、会長の井上さんという方が書かれたものを読みました。井上会長は、「終戦直後、日本人はさつま芋によって命をながらえることが出来た。さつま芋は日本人にとって、命の糧である。これから日本人が餓える時代が来るから、さつま芋を日本で普及させることが自分の使命である」

と、明確な使命と動機をもって協会を立ち上げておられました。日本人の命をながらえるために、さつま芋を普及させたいと強く思って行動している人がいるのですから、是非お会いしてみたいと思っています。

ですから食べ物は自給自足です。それが難しい場合は、農家の方と仲良くすることをお勧めします。

自然災害、鳥インフルエンザに関して申します。大野参与は今、マスクを一所懸命売っていて、結構売れているそうです。もっとも強毒性の鳥インフルエンザが始まったら、即座に増産しなければいけないわけです。まだ強毒性の鳥インフルエンザは日本に来ていませんが、流れからいって、来年いつ起きてもおかしくない。

ですから自然災害に対する対応を心掛けてください。今回の大雪も異常ですね。人の死に方がおかしいと感じます。人間が自分の身を守る方法を忘れてきているのではないのでしょうか。

鳥インフルエンザは起きると思って対応を進めて下さい。私が確認しようと思っているのは、家に入る前に外で手洗いやうがい出来るようになってきているか、きちんとウィルスを消毒できる体制になっているか、備蓄が出来ているか等です。家の中にウィルスを持ち込まないように、上着を外で脱いで、手を洗ってうがいをしてから家に入る。できれば脱いだ上着を掛けて日光に当てられるとよいでしょう。そういう習慣を家族全員がつけることが大事です。これが生き延びる道だと思っています。年寄りよりも若い人の方が死ぬ確率が高いですから、特に若い人にはさせた方がよいでしょう。

では、恒例の質問に参ります。今年一年間の締めくくりです。

○ 今年一年間、比較的嘘をつかなかった方

嘘がなく一年間過ごせれば、来年は良い年になります。

○ 今年一年間、比較的良い日が続いた方

私は今年、良い日が続いたことは沢山ありますが、同時に、思い出したくない（しかし、毎日思い出していますが）こともありましたから、なかなか一括りには出来ないこともあるなと思います。

○ 今年一年間、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

○ 今年一年間、健康法を実践できた方

手を挙げなかった方にお勧めします。御一緒にやってみて下さい。立ちあがってゆっくりかかとを上げて、つま先立ちになります。これを 10 回やってみて下さい。・・・どうで

すか？ ふくらはぎが張りますか？ ふくらはぎは第二の心臓と言いますから、ふくらはぎを刺激する事によって、血液の循環がよくなります。かかとをドンッと下ろすと骨粗鬆症の予防になります。ちなみに私は1日100回やっています。それから寝床に入ってしまったから、健康法をしていなかったと思い出した時は、息をゆっくり吐いてゆっくり吸う。15秒吐いて15秒吸うのが目安です。呼吸法をするだけでも効果があります。

○ 今年一年間、1回でも明日を過去形でイメージ出来た方

後半で中村天風先生の話をご致しますので、その時にご説明しましょう。

本日ご紹介する本は渡部昇一さんの書かれた『税高くして国亡ぶ』です。日本の国と比べ合わせて考えてください。ヨーロッパは古代、税金は10%がベースであった。それを許否する動きがやはりあったそうです。近代になって20%税金を取るようになると、脱税が始まった。25%になるとインフレの芽がどんどん進み、30%はその国が亡ぶかどうかの境目である。更に、35%で危機が始まるということを実感し、36%になると崖っぷちに立ったと歴史は認知する、とあります。日本の江戸時代の年貢は三公七民、これが五公五民になると百姓一揆が起きた。四公六民でも一揆が起きる可能性がありました。

ちなみに、イギリスは98%の富裕税を取った時期があります。日本も終戦直後、外国から借りた借金を返す時に、大金持ちに対して92%の税金をかけました。木内信胤先生もその決定の中に加わっておられました。イギリスが98%の税金を取った時には、イギリスが覇権国家から落ちて、アメリカに覇権を渡すことになりました。

今の税金はいくらでしょうか？ 来年は所得税が5%上がりますから、年収4356万円以上の方は実感でいくと6割は税金を取られることになります。来年は税金が上がります。他にも目に見えない形で税金を取られますから、覚悟が必要です。

では、レジュメにもどって基本哲学「知足」の説明を致します。「足るを知る」とは、ほどほどで良いといつも思えれば合格です。会社経営においても、目いっぱい稼がないで、ほどほどにしておけば良い。何が何でも、無理やり売り上げて…というのはやめた方が良いでしょう。ご飯を食べるのも、ほどほどが良いですね。ところが人間は歳をとって来ると、ほどほどと思わなくてもほどほどになるようですね。

「足るを知る」についてフォーラムでも何度もお話していますので、来年以降はご自分で歴史的なものを調べてみる作業に入って戴くとよろしいでしょう。ガンジーの本を読んでも出ていますし、道教や仏教にも出ています。

論語の視点

では論語の解説を致します。何度も申し上げていますが、論語は現代の視点で考えて下さい。

【十】子曰く、^{しいわ} 苟^{いやしく}も我^{われ}を用^{もち}うる者^{もの}有^あらば、^{きげつ}期月^かのみにして可^かなり。^{さんねん}三年^なにして成^なること有^あり。

孔子が言うには、もし私が国政に迎えられることがあれば、一年で何とか国らしく発展させることが出来る。三年経てば理想的な国家が出来る。

孔子は50代で国家の中枢に入って、失望して放浪の旅に出ました。行く先々で、我を用いる者はあるかと探し回ったけれども無い。結果として、お弟子さん達を各国へ送り込んだわけです。孔子自身は、私を雇ってくれば一年あれば何とか出来るし、三年あれば国を富まし発展させることが出来る自信満々ですが、なぜ採用されなかったのかと思います。

ローソンの社長からサントリーの社長になった新浪さんや日産のゴーンさんを考えてみて下さい。皆さんの中にも社長を引き継いで任された方がいらっしゃいますが、会社も3年を一区切りに考えられるとよいでしょう。

【十一】子曰く、^{しいわ} 善^{ぜん}人^{にん} 邦^{くに}を為^{おさ}むること^{ひやくねん}百年^{また}ならば、亦^{もつ} 以^{さん}て残^かに勝^{かつ}ち殺^さを去^きるべしと。
^{まこと}誠^{げん}なるかな是^この言^{げん}や。

凡人であっても、善い人が国を治めて二代・三代と百年続いたならば、良い国柄になって、死刑もないような国になるであろう。そう古語にあるが、この言葉は誠であるな。

本当にその通りだと孔子が嘆息しながら言っています。

善人が百年続くのでしょうか？ 中国は善人ばかりではありません。革命で一族郎党みな殺してしまう歴史ですから。日本の歴史においては、そういう惨殺はしませんし、徹底的な奴隷制もありません。世界で稀有な国だと思います。日本の中では、「善人が邦を為むること百年」というのも頷けます。ですからここは、建国理念がきちんとしていて、その上で善い人が百年間続けて国を治めれば死刑制度も無くなるだろうと、孔子の希望的感覚がかなり混ざっていると思います。

「善人 邦を為むること百年」を会社で考えると、それなりの力量がないと続かないと

と思いますが、創業者の教を一所懸命守っていけば100年くらいは続きますかね。普通は一代で30年ですから、30年続く会社はその後30年、また30年と続くかもしれません。30年持たずにおかしくなってしまう会社が多いですから。ただ、素晴らしい手腕を持つ人でなく、あの人は善人だというだけで続くというのは難しいと感じます。

国で言えば神話の時代から考えて、その国の国柄とか国土を考えてみましょう。月刊「カレント」の今月号で加瀬英明さんが宗教の比較をしていました。日本は、「母国」という言い方をしますが、「父国」とは言いません。日本人にとっては当たり前ではないかと思いますが、これは世界的に見て非常に珍しいそうです。更に、日本の絶対神は天照大神ですが、天照大神は女性です。これも珍しいそうです。ギリシャはゼウス、エジプトはラーで男です。世界中の多くの国は絶対的な権限を持つ男性神がほとんどで、女神が絶対神というのは日本くらいだそうです。日本という国は非常に特徴のある国だということが、この話からも見えてきます。

【十二】子曰く、如し王者有らば、必ず世にして後に仁ならん。

孔子が言うには、徳のある素晴らしい人物が現れて帝王になったなら、三十年経てば仁がその国に行き渡るであろう。

「世」は、一世ですから三十年です。三十年あれば何とかかなりますかね？ 私は会社を創業して三十年間社長としてやって参りましたが、ここにあるように文化が発達して徳があまねく行き渡って、素晴らしい会社になったかといえば、まるっきりそうは思えません。最初から素晴らしい人徳がある人物が出て来たなら、三十年あればその会社ぐるみ全て立派な者ばかりになる、とお考え戴ければよろしいでしょう。

中村天風先生の書かれたものには、布袋様が一番人徳の備わった素晴らしい人物として描かれています。布袋様がずた袋を下げて酒屋に飲みに入ると、何も言わなくても周りにいる人たちが教化されてしまって、みな良い考え方で素晴らしい人物に変わっていく。布袋様はそういう力を持った人徳があるのだという描き方をしています。そういう人物がトップになれば、会社も発展するでしょうね。トップたる人間は自分を磨いて、そういう方向へ努力すべきであるということなのでしょう。

【十三】子曰く、苟も其の身を正しくせば、政に従うに於て何か有らん。其の身を正しくすること能わずんば、人を正しくすることを如何にせん。

孔子が言うには、行いを正しくして政治に携われれば、国を治めるのにそう難しいことがあろうか。自分の身の行いを正しく出来ないならば、人を正そうとしても正すことは出来ないであろう。まず自分の身を正しくしなければいけない。

当たり前の話ですね。ここは小淵優子さんを考えればよいでしょう。少なくともお金がどう使われているかをきちんと自分でチェックしていれば、衆議院議員として国政に参加するに何の難しい事があるか。全部人に任せ放しにして、自分はお姫様稼業を続けていけば・・・とお読みください。先日の当選インタビューでは、禊が済んだかと聞かれて表情が強張っていましたから、それなりに自分でも感じていたのでしょう。感じていたのなら、それなりのことをすればよいのにと思いました。

中村天風先生の言葉

中村天風先生について西郷隆盛と並べてお話します。佐藤一斎は三学戒の教えで、素晴らしい人物になるためには、第一に天地自然、第二に素晴らしい人格者、第三に素晴らしい書物を師匠とせよと言っています。西郷隆盛は流罪にあった時に、柳行李いっぱい本を詰めて持って行きました。そして佐藤一斎の「言志四録」の抄録を作りました。西郷隆盛は常に書物がそばにあったわけです。天風先生はキャリアアップという素晴らしい人格の師匠に出会った。ですから三学戒と照らし合わせると、お二人とも三つの師を持っていましたが、西郷隆盛は書物、中村天風先生は素晴らしい人物に、特に強烈な影響を受けたわけです。

天風先生は幸福な人生を生きるのに必要なこととして、第一番は「人に好かれる人間になりなさい」と言っておられます。ということは、自分が相手を好きにならなければいけません。

次に、「寝がけが肝心で、寝床に入ったら、腹が立ったことなど思い出してはいけない」と言っておられます。今、私が実践しているのは、寝る時に一日のことを思い出して、楽しかったことがあれば何度も反芻するのです。それから、やりたいと思うことが出来たと思って眠る。また、その日の「か・き・く・け・こ」（歳をとっても豊かに生きる秘訣：感動・興味・工夫・健康・恋心）を思い出して、出来たと思ったら眠るようにしています。

また、「幸福や幸運は、自分が呼び寄せなければ来やしない」とも言っておられます。積極的に考えて行動する。マイナスはいけません。そして、幸せになりたいと思ったら、こういう幸せが欲しいと強く想わなければだめです。強く想えば思うほど、積極的に想えば

想うほど、幸せは自分に向かって来ます。自分が呼び寄せようと思うから来るのです。自分が要らないと思えば、またそれを態度で表さなければ幸せは来ない。態度で表すことによって幸福・幸運は呼び寄せられて来る。そう信じるのが肝心だと、天風先生は何度も話をされています。

恒例の質問「明日を過去形でイメージ出来たか」を天風先生の言葉で言い替えると、こうなります。「思えば思うほど楽しい、考えれば考えるほど嬉しい、これをしょっちゅう心の絵巻本の中にはっきりと消えない形で書き続けることが、人生極楽の秘訣です。」夜寝る時に、嬉しかったことや楽しかったことを思い出して、もう一度反芻する。そうすると、その嬉しさや楽しみを生み出してくれた人、或いは自分自身に対して「どうも有難う」と感謝が生まれます。それを年がら年中、起きている間中ひっきりなしに考えるし、寝る時にもまた考える、それを繰り返せば人生極楽だというわけです。

天風先生の言葉を幾つかご紹介しました。どうぞお聞きになった中からでも、また天風先生の本をお読みになって、自分で良いなと思ったものをお取りください。私のお勧めは、寝る時に何を考えて眠るか、寝る時が肝心だという部分です。

もう一つ、天風先生が体得されたクンバハカについてお話ししましょう。終戦直後の昭和22年、毎日ホールで250人くらいの米軍将校に対して、人生を豊かに充実して生きるための秘訣として天風先生がヨーガ哲学を講演されました。その時、アメリカ本土から一人の女性将校が休暇をとってやって来ていました。その女性将校はヨーガ哲学を習っていて、悟る秘訣として、「身体中を水でいっぱいにした状態にして、呼吸を一瞬止めなさい。それが分かればクンバハカが出来たと思って良い」とヒントを貰い、3年間一所懸命考えたけれども分からなかった。そこで是非とも天風先生にクンバハカの方法を教えて貰いたいと日本に来たわけです。

天風先生は、

肩を上げて、ふっと下ろして力を抜く。

肛門をきゅっと締める。

下腹にぐっと力を入れる。

この3つを同時に行う。これがインドのヨーガ哲学の最高の秘訣ですと、実践されたそうです。そうしましたら、その女性将校は奇声を上げて壇上に飛びあがり、涙をポロポロ流しながら天風先生に抱きついたそうです。自分が3年間考えていた命題がこんなにも簡単だったのかと分かって、狂喜したのです。

私もやってみましたが、同時にというのは難しいから一つだけでよいと思っています。

何かとんでもない出来事が起きたら、肛門だけ締める。そうすると自動的に肩も下がるし、下腹にも氣合いが入ります。下腹に力を入れても肛門は締まらないし、肩の力を抜いても肛門は締まりません。意識して肛門を締めると、他が一緒に出来ます。ですから、大変なことが起きたら肛門をキュッと締める、それだけ覚えておけば良いと思います。来年とんでもない事態が起きた時、それを上手にクリアする秘訣は肛門を締めること、と申し上げて一年間終了に致します。どうぞ良いお年をお迎えください。